

台湾企業と合併設立

アジア市場拡大向け

東京未来スタイル

バイオ系貿易商社の東京未来スタイル(つくば市千現、遠藤隆社長)は台湾で現地企業とアジア市場の拡大に向けた合併会社を設立した。同社は台湾事務所を構えて研究用試験薬などの市場調査や販路開拓に取り組んでおり、新会社の設立で進出を加速。新たに臨床検体の取り扱い事業にも乗り出していく。

新たに臨床検体事業も

東京未来スタイルと、現地商社のネットガードテックノロジー社は今月17日、資本金150万台湾ドル(約550万円)の合併会社を立ち上げた。東京未来スタイルが53%出資し、会長には同社の遠藤社長が就く。本社は東京未来スタイルの台湾事務所(台北市)に置き、今後は現地大学の医学部施設内にも事務所をつくる予定。社員は3人体制で運営していく。

合併会社は、先端医療分野の研究試薬や診断薬原料などの輸入販売を行う。現地で法の改正を受け、新たに新薬開発や研究用に使われる臨床検体も取り扱いを始める。現地ベンチャー企業の商品を海外市場に販売したり、日本と台湾、欧

米の企業間での新規連携事業の展開を行う。遠藤社長は「台湾は日本と比べると医療の研究開発が発展段階。今から進出に力を入れ、存在感を高めたい」という。

東京未来スタイルは欧米、アジアを中心に世界16カ国・地域にネットワークを持ち、再生医療やがん研究、新興、再興感染症分野などの研究試薬や材料を国内に輸出入している。2014年に情報集積の基地としてオランダにヨーロッパ事務所、16年にアジア展開を見据えた台湾事務所を開設した。これまでもネットガード社と提携して輸出入業務に取り組んでおり、両社が一体となり市場拡大を図る。売上高は20年までに

1億円を目指す。

遠藤社長は「アジアの拠点として発展させ、台湾での科学技術発展にも寄与できれば」と期待している。

(磯前有花)